來社團法人能樂會ニ教育ヲ委託セシカ本年度限リ委託ヲ解除セリ
其他年度内ニ於テ學則及規程等改正シタルモノナシ〔和文タイプ〕

(四) 昭和十一年度～十五年度

昭和十一年～十二年

六月、文部省令第十一号により邦楽科が設置された。この件につき東京音楽学校が文部大臣宛に提出した文書は四通残されている。

一、音庶第七二号。昭和十一年六月一日付「東京音樂學校規定中改正案」
二、音庶第七三号。昭和十一年六月一日付「東京音樂學校學則中改正案」
三、音庶第八五号。昭和十一年六月九日付「邦樂科生徒入學期日ニ關スル件具申」
四、音庶第八五号（三と同じ番号）。昭和十一年六月十日付「邦樂科生徒入學期日ニ關スル件依頼」

六月二十日付、文部省令第一一号により邦楽科設置に伴う則程改正が行われた。

一～四までの文書と文部省令第一一号を次に掲げる。

音庶第七二號

規程改正ノ件上申

本學年度ヨリ本校ニ邦樂科ヲ設置ニ付明治四十二年四月二十九日文部省令第十三號東京音樂學校規程中別案ノ通改正相成度此段上申候也

昭和十一年六月一日

東京音樂學校長　乗杉嘉壽印

文部大臣　平生釟三郎　殿

東京音樂學校規程中改正案要旨

一、本改正ハ專門學校令第七條ノ規定ニ據リ新ニ邦樂科ヲ設置スルニ由ル
二、邦樂科ノ修業年限ヲ三年、學科目ヲ修身、能樂又ハ絃曲、音樂理論、音樂史、國語、外國語及體操ノ七科目トシ外ニ隨意科目ヲ置キ學修上ノ必要ニ應シテ之ヲ兼修スルコトヲ得シム
三、入學資格ハ中學校第四學年又ハ高等女學校第四學年ヲ修了シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力ヲ有スルモノトスルモ學科ノ性質上特ニ樂才アリト認ムルモノノ入學ヲ許可ス
四、邦樂科卒業者ノ爲研究科ニ邦樂部ヲ設ク其ノ修業年限ヲ二年トス
五、研究科邦樂部ノ學科目ハ能樂又ハ絃曲トシ外ニ隨意科目ヲ置キ研究上ノ必要ニ應シテ之ヲ兼修スルコトヲ得シム
六、研究科邦樂部ノ入學資格ハ邦樂科卒業者トス但シ邦樂科ト同シク特ニ樂才アルモノノ入學ヲ許可ス
七、入學、卒業、除籍、試業及授業料等ニ關スル規定ハ總テ豫科及本科ニ準シテ之ヲ定ム

明治四十二年四月二十九日文部省令第十三號

東京音樂學校規程中改正案

第一條中「本科及師範科」ヲ「本科、師範科及邦樂科」ニ改ム
第八條ノ二　邦樂科ノ修業年限ハ三箇年トス

第八條ノ三　邦樂科ノ學科目及毎週教授時數左ノ如シ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
能樂又ハ絃曲（箏曲長唄）	一〇	一〇	一〇
音樂理論	二	二	二
音樂史			
國語	三	三	三
外國語	二	二	二
體操	二	二	二
計	二〇	二〇	二〇

邦樂科生徒ニハ隨意科トシテ洋樂、舞踊、美學、音聲學及音響學ヲ授クルコトヲ得

第八條ノ四　邦樂科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年又ハ高等女學校第四學年ヲ修了シタル者若ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニ就キ試驗ノ上學校長之ヲ定ム但シ前記ノ資格ヲ有セサル者ト雖モ特ニ音樂ノ才能アリト認ムル者ハ試驗ノ上之ヲ入學セシムルコトヲ得

第十三條第一項中「聲樂部、器樂部及作曲部」ヲ「聲樂部、器樂部、作曲部及邦樂部」ニ改ム

第十四條第一項中「作曲部　音樂理論」ノ次ニ「邦樂部　能樂又ハ絃曲（箏曲長唄）」ヲ加フ

同條第二項中「ピアノ」ノ次ニ「唱歌」ヲ、「管絃樂用樂器」ノ次ニ「舞踊」ヲ加フ

第十六條第一項中「研究科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科卒業者」ヲ「研究科ノ聲樂部、器樂部及作曲部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科卒業者、邦樂部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ邦樂科卒業者」ニ改ム

同條第二項中「本科卒業者」ヲ「本科又ハ邦樂科卒業者」ニ改ム

〔和文タイプ〕

音庶第七三號

學則改正ノ件上申

本學年度ヨリ本校ニ邦樂科設置ニ付本校規程中改正ノ件別途上申致置候處右改正ノ上ハ本校學則中別案ノ通改正致度此段上申候也

昭和十一年六月一日

東京音樂學校長　乘杉嘉壽印

文部大臣　平生釟三郎　殿

東京音樂學校學則中改正案要旨

〔前出の「音庶第七二號」中の「東京音樂學校規程中改正案要旨」全七項目と同一につき、ここでは省略する〕

東京音樂學校學則中改正案

第二條第一項中「本科及師範科」ヲ「本科、師範科及邦樂科」ニ改

ム

第三章ノ二　邦樂科

第十三條ノ二　邦樂科ノ學科目ハ修身、能樂又ハ絃曲（箏曲長唄）、音樂理論、音樂史、國語、外國語及體操トス

第十三條ノ三　邦樂科ノ修業年限ハ三箇年トス

第十三條ノ四　邦樂科ノ各學科目ノ毎學年配當竝毎週教授時數左ノ如シ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
能樂又ハ絃曲（箏曲長唄）	一〇	一〇	一〇
音樂理論	二	二	二
音樂史			
國語	三	三	三
外國語	二	二	二
體操	二	二	二
計	二〇	二〇	二〇

第十三條ノ五　邦樂科ニ在リテハ第十三條ノ二ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルヘシ

洋樂、舞踊、美學、音聲學、音響學

第十三條ノ六　邦樂科ニ入學ノ許可スヘキ者ハ品行善良ニシテ次ノ各號ノ一ニ該當シ且試驗ニ合格シタル者トス但シ女子ハ夫ナキ者ニ限ル

一　中學校第四學年修了者

二　高等女學校第四學年修了者

三　高等學校尋常科修了者

四　高等學校高等科入學資格試驗ニ合格シタル者

五　專門學校入學者檢定規程ニ依リ試驗檢定ニ合格シタル者

六　文部大臣ニ於テ專門學校ノ入學ニ關シ中學校又ハ高等女學校卒業者ト同等以上ノ學力アリト指定セラレタル者

前項ノ試驗ハ左ノ學科目ニ付之ヲ行フ

一　能樂、又ハ絃曲（箏曲長唄）

二　國語

三　外國語

第一項ノ資格ヲ有セサル者ト雖モ特ニ音樂ノ才能アリト認ムル者ハ試驗ノ上入學ヲ許可スルコトアルヘシ

第十八條中「聲樂部、器樂部及作曲部」ヲ「聲樂部、器樂部、作曲部及邦樂部」ニ改メ、「作曲部　音樂理論」ノ次ニ「邦樂部　能樂又ハ絃曲（箏曲長唄）」ヲ加フ

第二十條第一項中「ピアノ」ノ次ニ「唱歌」ヲ、「管絃樂用器樂」ノ次ニ「舞踊」ヲ加フ

第二十一條中「研究科ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ本科卒業者中」ヲ「研究科ノ聲樂部、器樂部又ハ作曲部ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ本科卒業者、邦樂部ニ入學ヲ許可スヘキ者ハ邦樂科卒業者中」ニ、同條但書中「本科卒業者」ヲ「本科又ハ邦樂科卒業者」ニ改ム

第二十六條第二項中「本科卒業者」ヲ「本科又ハ邦樂科卒業者」ニ改ム

第三十六條第一項第三號中「本科又ハ師範科」ヲ「本科、師範科又ハ邦樂科」ニ改ム

第三十八條中「本科生徒」ヲ「本科及邦樂科生徒」ニ改ム

第三十九條中「師範科ノ唱歌及器樂」ノ次ニ「邦樂科ノ能樂又ハ絃曲」ヲ加ヘ、「同作曲部ノ音樂理論」ヲ「同作曲部ノ音樂理論及同邦樂部ノ能樂又ハ絃曲」ニ改ム

第四十一條中「本科又ハ師範科」ヲ「本科、師範科又ハ邦樂科」ニ改ム

第四十三條中「本科　金八拾圓」ノ次ニ「邦樂科　金八拾圓」ヲ加フ

第四十五條中「本科、豫科」ヲ「本科、邦樂科、豫科」ニ改ム

第五十三條中「本科生徒」ヲ「本科又ハ邦樂科生徒」ニ改ム

附　則

本改正ハ　年　月　日ヨリ施行ス

（和文タイプ。附則のみ手書き。なお、文書の終わり部分の上部余白に「施行日ハ省令公布ト同日ニ願度旨申出アリタリ」という書き込みが見られる）

音庶第八五號

邦樂科生徒入學期日ニ關スル件具申

本學年度ヨリ本校ニ設置可相成邦樂科ニ關シテハ關係省令竝ニ學則改正ニ付キ別途上申中ノ處本學年度ニ限リ來ル七月ヨリ生徒ヲ入學セシメ度就テハ四月ヨリ六月ニ至ル間ノ授業ヲ左記方法ニ依リ補充可致此段具申候也

昭和十一年六月九日

東京音樂學校長　乘杉嘉壽印

文部大臣　平生釟三郎　殿

記

一、自四月至六月推定授業時數

四月十一日始業六月末日マテノ推定授業時數左ノ如シ

修身　一〇時　能樂又ハ絃曲　一一〇時
音樂理論及音樂史　二〇時　國語　三〇時
外國語　二〇時　體操　二〇時
計　二一〇時

二、補充方法

夏季休業中七月十一日ヨリ八月十日マテ及九月一日ヨリ九月十日マテ日曜日ヲ除キ參拾五日間左ノ通リ授業ヲ行フ

學科目	毎週授業時數	授業總時數	備考
修身	二	一二	毎日授業時數六時トス
能樂又ハ絃曲	一八	一〇八	
音樂理論及音樂史	四	二四	
國語	四	二四	
外國語	四	二四	
體操	三	一八	

計	三五	二一〇	

〔和文タイプ〕

音庶第八五號（ママ）

昭和十一年六月十日

東京音樂學校長　乘杉嘉壽印

文部省專門學務局長　伊東延吉殿

邦樂科生徒入學期日ニ關スル件依頼

本月九日付音庶第八五號ヲ以テ首題ノ件ニ關シ具申致置キ候處右ニ付キ生徒募集及入學試驗等左記ノ通リ施行致度ニ付御了知ノ上關係勅令及省令ノ改正方至急御取計相煩度此段及御依頼候也

記

六月二十日マデ　入學願書受付
六月廿一日ヨリ六月廿四日マデ　入學試驗施行
六月廿五日　入學許可發表
七月一日　入學式施行

以上

〔和文タイプ〕

東音專八號　裁決定6月19日　發送6月20日

昭和十一年六月四日起案

省令案

文部省令第一一號

東京音樂學校規程中左ノ通改正ス

一一年六月二十日　文部大臣

第一條中「本科及師範科」ヲ「本科、師範科及邦樂科」ニ改ム

第八條ノ二　邦樂科ノ修業年限ハ三箇年トス

第八條ノ三　邦樂科ノ學科目及毎週教授時數左ノ如シ

學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年
修身	一	一	一
能樂又ハ絃曲（箏曲長唄）	一〇	一〇	一〇
音樂理論	二	二	二
音樂史			
國語	三	三	三
外國語	二	二	二
體操	二	二	二
計	二〇	二〇	二〇

邦樂科生徒ニハ隨意科目トシテ洋樂、舞踊、美學、音聲學及音響論ヲ授クルコトヲ得

第八條ノ四　邦樂科ニ入學スルコトヲ得ル者ハ中學校第四學年、高等女學校第四學年ヲ修了シタル者又ハ之ト同等以上ノ學力アル者ニ就キ試驗ノ上學校長之ヲ定ム但シ前記ノ資格ヲ有セサル者ト雖モ特ニ音樂ノ才能アリト認ムル者ハ試驗ノ上之ヲ入學セシ

ムルコトヲ得

第十三條第一項中「聲樂部、器樂部及作曲部」ヲ「聲樂部、器樂部、作曲部及邦樂部」ニ改ム

第十四條　研究科ノ學科目左ノ如シ

聲樂部　唱歌

器樂部　器樂、ピアノ、オルガン、ヴァイオリン又ハセロ

作曲部　音樂理論

邦樂部　能樂又ハ絃曲（箏曲 長唄）

隨意科目トシテピアノ、唱歌、管絃樂用器樂、舞踊、總譜視奏法、外國語、國文學、外國文學、美學及音響論ヲ授クルコトヲ得

第十六條　研究科ノ聲樂部、器樂部及作曲部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ本科卒業者、邦樂部ニ入學スルコトヲ得ル者ハ邦樂科卒業者ニ限ル

本科又ハ邦樂科卒業者ニ非スシテ試驗ニ依リ之ト同等以上ノ資格アリト認メタル者ニハ研究科ニ屬スル學科目ノ學習ヲ許可スルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

案ノ二

東京音樂學校

昭和十一年六月一日付音庶第七三號申請學則中改正ノ件許可ス

年　月　日　　文部大臣

〔手書き〕

文部省令第十一号に関する文書に、次のような「正誤」が付されている。

東音專八號　裁決定6月20日　發送6月20日

昭和十一年六月二十日起案

案

東京音樂學校規程中左ノ通正誤相成可然哉

正　誤

本月二十日文部省令第十一號中「（琴曲 長唄）」ハ「（箏曲 長唄）」ノ誤

文部書記官

〔手書き〕

昭和十二年四月、文部省令第三号により学則改正が行われる。この結果、本科、研究科、師範科の随意科目に音声学が加わり、邦楽科随意科目に教育学が加わった。また和声論は和声学に、音響論は音響学に改められた。

改正のための手続きが十二年一月にとられているのでここに掲載する。文書中の「第○條」は「東京音樂學校規程」中のものである。

音庶第七號

本校規程中改正ノ件上申

明治四十二年文部省令第十三號東京音樂學校規程中別紙ノ通御改正相成度此段上申候也

昭和十二年一月十二日

東京音樂學校長　乘杉嘉壽印

文部大臣　平生釟三郎　殿

明治四十二年文部省令第十三號東京音樂學校規程中改正案

第三條第三項中「美學」ノ次ニ「音聲學」ヲ加ヘ「音響論」ヲ「音響學」ニ改ム

第七條第一項中「和聲論」ヲ「和聲學」ニ改メ同條第二項中「美學」ノ次ニ「音聲學」ヲ加ヘ「音響論」ヲ「音響學」ニ改ム

第八條ノ三第二項中「美學」ノ次ニ「教育學」ヲ加ヘ、「音響論」ヲ「音響學」ニ改ム

第十四條第二項中「美學及音響論」ヲ「美學、音聲學及音響學」ニ改ム

附　則

第三條中、第七條中、第八條中及第十三條中ノ改正ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（改正ヲ必要トスル理由）

一、本科、甲種師範科及研究科ニ於テ隨意科目トシテ音聲學ヲ加フルノ必要アルニ由ル（邦樂科ニ於テハ既ニ音聲學ヲ隨意科目中ニ加フ）

二、本科、甲種師範科、邦樂科及研究科ノ隨意科目中音響論ハ其ノ内容ヨリ音響學ニ改ムルヲ適當トスルニ由ル

三、甲種師範科ノ學科目中和聲論ハ其ノ内容ヨリ和聲學ニ改ムルヲ適當トスルニ由ル

四、邦樂科生徒ハ其ノ卒業後公私ノ邦樂教育ニ從事スル者アルヘキヲ以テ隨意科目中ニ教育學ヲ加ヘ之ヲ履修スルヲ得シムル必要アルニ由ル

（現行規程摘要）

第三條第三項　隨意科目トシテ獨唱、ピアノ、オルガン、ヴアイオリン、セロ、ヴイオラ、ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネツト、バツスーン、ホーン、トロンボーン、トランペツト、美學、音響論、佛語、伊語ヲ授クルコトヲ得

第七條第一項及第二項　師範科ノ學科目及毎週教授時數左ノ如シ

科目	甲種師範科			乙種師範科
學科目＼學年	第一學年	第二學年	第三學年	
中略				
和聲論	—	二	二	—
中略				
計	二三	二三	二二	二二

甲種師範科生徒ニハ隨意科目トシテオルガン、ヴアイオリン、管樂、美學、音響論及獨語ヲ授クルコトヲ得

第八條ノ三第二項　邦樂科生徒ニハ隨意科目トシテ洋樂、舞踊、美學、音聲學及音響論ヲ授クルコトヲ得

第十四條第二項　隨意科目トシテピアノ、唱歌、管絃樂用器樂、舞踊、總譜視奏法、外國語、國文學、外國文學、美學及音響論ヲ授クルコトヲ得

〔和文タイプ〕

音庶第八號

學則中改正ニ付上申案

明治四十二年文部省令第十三號東京音樂學校規程中改正ノ件別途上申致候處右御改正ノ上ハ學則中別紙ノ通改正致度ニ付御許可相成度此段上申候也

昭和十二年一月十二日

東京音樂學校長　乘杉嘉壽印

文部大臣　平生釟三郎　殿

東京音樂學校學則中改正案

第六條中「美學」ノ次ニ「音聲學」ヲ加ヘ、「音響論」ヲ「音響學」ニ改ム

第八條中「和聲論」ヲ「和聲學」ニ改ム

第十條中「和聲論」ヲ「和聲學」ニ改ム

第十一條中「美學」ノ次ニ「音聲學」ヲ加ヘ、「音響論」ヲ「音響學」ニ改ム

第十三條ノ五中「美學」ノ次ニ「教育學」ヲ加ヘ、「音響論」ヲ「音響學」ニ改ム

第二十條第一項中「美學」ノ次ニ「音聲學」ヲ加ヘ、「音響論」ヲ「音響學」ニ改ム

附　則

第六條中、第八條中、第十條中、第十一條中、第十三條ノ五中及第二十條中ノ改正ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス〔和文タイプ〕

東音專二號　裁決定1月29日　發送2月5日

昭和十二年一月十八日起案

省令案

文部省令第三號

東京音樂學校規程中左ノ通改正ス

年　月　日

文部大臣

第三條第三項中「美學、」ノ次ニ「音聲學、」ヲ加ヘ「音響論」ヲ「音響學」ニ改ム

第七條第一項表中「和聲論」ヲ「和聲學」ニ改メ同條第二項中「美學、」ノ次ニ「音聲學、」ヲ加ヘ「音響論」ヲ「音響學」ニ改ム

第八條ノ三第二項中「美學、」ノ次ニ「教育學、」ヲ加ヘ「音響論」ヲ「音響學」ニ改ム

第十四條第二項中「美學及音響論」ヲ「美學、音聲學及音響學」ニ改ム

附　則

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ施行ス

備考

改正ノ理由別紙參照

案ノ二

東京音樂學校

昭和十二年一月十二日音庶第八號申請學則中改正ノ件許可ス

年二月三日

文部大臣

備考

規程改正ニ伴ヒ學則中改正セントス　〔手書き〕

昭和十一年度の終わりに『昭和十一年度東京音樂學校年報』全体を掲載する。「年報」は昭和十三年五月の文部大臣官房文書課長よりの通達により、昭和十二年度をもって明治三十一年以来の様式を大幅に改訂することとなり、「概況」「規程」などの項目を設けるのは当年度が最後となる。

音庶第一七一號　發送十月一日

昭和拾貳年九月廿日起案

學校長

文部大臣官房文書課長宛

昭和拾壱年度年報通達ノ件

昭和拾壱年度本校年報取調條項甲年款、甲號表、乙號表及丙號表及進達候也

昭和十一年度東京音樂學校年報取調條項

甲款

概況

本年度ニ於ケル生徒卒業證書授與式ハ參月貳拾貳日之ヲ擧行シ本科卒業者參拾貳名（內聲樂部卒業者八名、器樂部卒業者貳拾貳名、作曲部卒業者貳名）及甲種師範科卒業者參拾八名ニ對シ夫々卒業證書ヲ授與シ併セテ研究科、聽講生、選科及能樂囃子科修了者ニ對シ各修了證書ヲ授與セリ

本年度ヨリ本校ノ學科ニ新ニ邦樂科ヲ設置セラレ七月ヨリ其ノ授業ヲ開始セリ

毎年定例トシテ開催スル定期演奏會其ノ他年度內ニ於テ開催シタル主要ナル演奏會左ノ如シ

演奏會名稱	開催月日	會場
研究科修了演奏會	四月廿五日	本校奏樂堂
選科邦樂修了演奏會	五月九日	本校奏樂堂
選科洋樂春季演奏會	五月三十日	本校奏樂堂
第七拾九回音樂演奏會	六月二十日	日比谷公會堂
第八拾回音樂演奏會	十月十七日	日比谷公會堂
邦樂演奏會	十壹月七日	本校奏樂堂
第八拾壹回音樂演奏會	十二月十九日	日比谷公會堂
第八拾貳回音樂演奏會	二月廿七日	日比谷公會堂
卒業演奏會	三月廿二日	本校奏樂堂

右ノ外全國高等女學校長招待演奏會壹回、本校生徒ノ組織スル學友會ノ主催ニ係ル演奏會七回、本校內設置ノ上野兒童音樂學園第三

回演奏會及卒業演奏會ヲモ開催セリ

本年度ニ於テ生徒ノ地方出張演奏ヲ兼ネタル修學旅行ヲ實施スルコト五回、内三回ハ邦樂科生徒トス

六月二十六日　大阪市（吹奏樂）
同月二十七日　大阪市（洋樂）
同月二十八日　大阪市（洋樂）
十月十六日　仙臺市（邦樂）
同月十七日　盛岡市（邦樂）
同月十八日　新潟市（邦樂）
十一月三日　濱松市（洋樂）
同月四日　滋賀縣彦根町（洋樂）
同月五日　和歌山市（洋樂）
同月六日　奈良市（洋樂）
同月七日　名古屋市（洋樂）
同月廿九日　横須賀市（邦樂）
十二月四日　名古屋市（邦樂）
同月五日　岐阜市（邦樂）
同月六日　津市（邦樂）
同月七日　宇治山田市（邦樂）

規程

六月二十日文部省令第十一號ヲ以テ本校規程中改正シ學科目中新ニ邦樂科ヲ加ヘラレタルヲ以テ學則中關係條項ヲ追加セリ又二月三日同省令第三號ヲ以テ本科、甲種師範科、邦樂科及研究科ノ學科目中其ノ名稱ヲ改正セラレタルニ依リ學則中之ニ關スル事項ヲ改正セリ選科規程中改正シテ「能樂」中ノ四科目併修スルコトヲ得シメ且之ニ關スル授業料額ヲ定メ「長唄」中ニ「囃子」ヲ加ヘ之ニ關スル授業料額ヲ規程セリ

新ニ本校音聲研究部規程及其ノ細則ヲ設定シ又邦樂調査掛規程中改正セリ

設備

本校學舍ノ主要部ハ木造ニシテ明治貳拾參年ノ建築ニ係リ規模極メテ狹小ナリ其後教室、練習室等ノ增築ヲ行ハレタルモ猶ホ甚タ狹隘ニシテ生徒教養上ノ不利不便頗ル多ク爲メニ生徒學業ノ進歩ヲ妨ケ且多數ノ生徒ヲ收容シ難キ現狀ニ在リ又奏樂堂ノ如キ現代ニ適應セサル構造ニシテ其ノ設備甚タシク不完全ナリ而シテ演壇ハ數次補足擴張セルモ多人數ヲ要スル合唱及管絃樂ノ演奏ヲ行フコトヲ得ス且聽衆ノ座席僅小ナル爲メ屢々參聽ノ希望者ノ入場ヲ謝絶スルノ已ムヲ得サルコトアリ仍テ多大ノ不便ト不利トヲ伴フモノアルニモ拘ラス最近數年本校外ノ公會堂ヲ借用シテ演奏會ヲ開催シツヽアルノ狀態ナリトス加之現校舍ハ建築後既ニ四拾幾年ヲ經過セルヲ以テ内外共ニ腐朽破損ノ箇所續出シ拾數年以來危險ノ虞ヲ抱カシムルモノアリ昭和七年度ニ於テ全校舍ノ大修理ヲ行ヒタリト雖モ僅カニ一時ノ難ヲ避ケタルニ止マリ今後數年ニシテ再ヒ此ノ危虞ヲ發生スルヘキコト瞭カナルノミナラス教育ノ效果增進上ヨリ之ヲ見ルモ速カニ之カ改築ヲ行ヒ且其ノ設計モ時勢ノ進運ニ伴ヒ規模宏壯耐震耐火諸般ノ設備充實セルモノタルヲ必要ト

ス

分教場ハ大震火災後建築ニ係ルヲ以テ本校舍ニ見ルカ如キ缺陷ナキモ最近收容生徒數ノ激增ニ伴ヒ教室及練習室ノ不足ヲ告クルモノアルヲ以テ是亦擴張ヲ圖ルノ要切實ナリ

寄宿舍ハ其ノ建築後相當ノ年所ヲ經殊ニ構造甚シク粗雜ニシテ設備極メテ不完全ナルノミナラス衞生上遺憾ヲ感スルモノ頗ル多シ仍テ本年度ニ於テ其ノ一部ヲ改築シ且來年度ニ於テモ更ニ其ノ一部ヲ改築セラルヘキ計畫ナリト雖モ速ニ全部ヲ改築スヘキ必要アリ又現在ノ寄宿舍ハ女生徒ノミノ爲ニ之ヲ設クルモ別ニ男生徒ノ爲ニモ設置スヘキ必要アリ

職員

本年度新ニ邦樂科ヲ設置セラレタルニヨリ職員ノ定員中教授三人、助教授一人ヲ增加セラレ現ニ校長一人、教授二十人、生徒主事一人、助教授十三人、書記六人、生徒主事補一人、技手一人、ニシテ來年度以降邦樂科ノ學年進行ニ伴ヒ更ニ定員ヲ增加セラルヘキモ個人教授ヲ主トスルヲ以テ所定ノ學科目ヲ適當ニ擔任セシムルニハ教官ノ數不足スル爲メ多數ノ講師ヲ囑託シ又助手ヲ採用シテ之カ補充ヲ爲スノ已ムヲ得ス尙選科生徒ノ教場ハ校外ニ在ルヲ以テ之カ爲メニモ教官ノ不足ヲ訴フル事情アルノミナラス別ニ事務職員ヲモ必要トスルヲ以テ教官及書記ノ定員ヲ增加スルノ必要アリ

生徒

學年初メニ於テ豫科及甲種師範科生徒ヲ募集シ試驗ニ依リテ選拔入學セシメ研究科及聽講生ノ入學志願者ニ對シテハ試驗ヲ行フコトナリ既修ノ學業成績ニ就キ檢定ノ上其ノ入學ヲ許可セリ又選科生徒ハ每學期初メ入學志願者ノ學力カ學習ニ堪フルヤ否ヤ且將來進步スヘキ見込ノ有無等ヲ考査シテ之ヲ入學セシメタリ

生徒訓育ノ成績ハ遂年良好ニシテ學業成績亦漸次向上シツヽアルヲ確認ス

本年度ニ於テ成業ノ見込無キ爲本入學ヲ許可セサリシ者及學業品行ニ依リ諭旨退學又ハ除籍處分ヲ爲シタルモノナシ

本年度末ニ於テ卒業者及修了者ニ對シ在學中品行善良學業優秀ノ廉ヲ以テ賞與セル者本科十三人、甲種師範科參人、選科貳人、計拾八人、在學中精勵ノ爲メ賞與セル者本科壹人、甲種師範科四人、研究科一人計六人ナリ

〔和文タイプ〕

昭和十一年度東京音樂學校年報甲號表

一、教官及事務官表

種別		教官		事務官		族籍別人員				
		人員	俸給年額	人員	俸給年額	華族	士族	平民	合計	
勅一等校長	男			一	五、二五〇				一	
	女									
	計			一	五、二五〇			一	一	
勅一等校長	計			一	五、二五〇			一	一	
	男	一	二、七七〇				一			一

任奏																			任			
五等							四等				計	三等							合計	二等		
計	主生事徒			教授			計	教授				主生事徒			教授					計	教授	
	計	女	男	計	女	男		計	女	男		計	女	男	計	女	男				計	女
九				九	一	八	四	四	一	三	㊀二				㊀二	一	㊀一	一	一	一	一	
一三、四四〇				一三、四四〇	一、四七〇	一一、九七〇	六、九四〇	六、九四〇	一、六五〇	五、二九〇	四、五七〇					二、四二〇	二、一五〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	二、七七〇	
㊀	㊀		㊀								㊀一	㊀一		㊀一								
											二、七七〇	二、七七〇		二、七七〇								
三				三	一	二	一	一	一		一				一	一		一	一	一	一	
㊀六	㊀		㊀	六		六	三	三		三	㊁二			㊀一	㊀一		㊀一	一				
㊀九	㊀		㊀	九	一	八	四	四	一	三	㊁三			㊀一	㊀二	一	㊀一	二	一	一		

任判														任秦								
	三級俸									一級俸				合計	七等				六等			
	計	書記			計	主生事補徒			計	書記					計	教授			計	教授		
男		計	女	男		計	女	男		計	女	男				計	女	男		計	女	男
一														㊀一九	二	二		二	一	一	一	
一、一四〇														三一、九六〇	二、七七〇	二、七七〇		二、七七〇	一、四七〇	一、四七〇	一、四七〇	
	㊀二	㊀一		㊀一	一	一	一		一	一		一		㊁二								
	二、六四〇	二、六四〇		一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇	一、三二〇		一、七四〇	一、七四〇		一、七四〇		八、〇二〇								
														六								
一	㊀一	㊀一		㊀一	一	一	一		一	一		一		㊂一五	二	二		二	一	一	一	
一	㊀一	㊀一		㊀一	一	一	一		一	一		一		㊂二一	二	二		二	一	一	一	

判任・四級俸・助教授・女	判任・四級俸・助教授・計	判任・四級俸・計	判任・四級俸・書記・男	判任・四級俸・書記・女	判任・四級俸・書記・計	判任・四級俸・計	判任・五級俸・助教授・男	判任・五級俸・助教授・女	判任・五級俸・助教授・計	判任・五級俸・計	判任・五級俸・書記・男	判任・五級俸・書記・女	判任・五級俸・書記・計	判任・五級俸・計	判任・六級俸・助教授・男	判任・六級俸・助教授・女	判任・六級俸・助教授・計	判任・六級俸・計	判任・六級俸・技手・男	判任・六級俸・技手・女	判任・六級俸・技手・計	判任・六級俸・計
一	二	二				二ママ	△一一	三	△一四	△一四						二	二	二				
一、一四〇	二、二八〇	二、二八〇				二、二八〇ママ	一、〇二〇	三、〇六〇	三、〇六〇	四、〇八〇						一、八〇〇	一、八〇〇	一、八〇〇				
			一		一	一					二		二	二					一		一	一
			一、一四〇		一、一四〇	一、一四〇					二、〇四〇		二、〇四〇	二、〇四〇					九〇〇		九〇〇	九〇〇
一	一	一	一		一	一		一	一	一												
	一	一					△一一	二	△一三	△一三	四		四	四		二	二	二	一		一	一
一	二	二	一		一	一	△一一	三	△一四	△一四	四		四	四		二	二	二	一		一	一

七級俸・助教授・男	七級俸・助教授・女	七級俸・助教授・計	七級俸・計	合計
三	△一	△一三	△一三	△二一一
二、三四〇	△三一二	二、六五二	二、六五二	一〇、八一二
				△一七
				八、四六〇
一		一	一	四
二	△一	△一二	△一二	㊀△一一六
三	△一	△一三	△一三	㊀△一二〇

備考
本表中赤書〔○で囲んで示した〕ハ兼官　△ヲ附シタルハ在外研究員ニ係ルモノヲ示ス

二、嘱託員表

種別	講師・男	講師・女	講師・計	教務嘱託・男	教務嘱託・女	教務嘱託・計	事務嘱託・男	事務嘱託・女	事務嘱託・計
人員	(四)一六	(二)一一	(六)二七	(二七)二九	(四)一九	(三一)四八	(二)五		(二)五
報酬年額	一一、九二〇圓	六、五六〇〃	一八、四八〇〃	一〇、二〇〇〃	六、九〇〇〃	一七、一〇〇〃	四、八六〇〃		四、八六〇〃

	男	女	計
校醫	一		一
邦樂調査囑託	一〇		一〇
樂語調査囑託	二		二
總計	四六 五〇〇圓	六 三〇〇〃	五二 八〇〇〃
	二六、九八〇圓	一三、四六〇〃	四〇、四四〇〃

備考　本表中赤字〔○で囲んで示した〕ハ無報酬ノモノヲ示ス

外國人講師表

種別	氏名	受持學科	報酬年額
波蘭男	ウイリー・フライ	ヴァイオリン	六〇〇圓

外國人囑託員表

種別	氏名	受持學科	報酬年額
波蘭男	ウイリー・フライ	ヴァイオリン	六〇〇圓
北米合衆國男	セロン・エルスワース・ジョンソン	トロンボーン、サキソホーン、クラリネット	一、二〇〇圓

三、雇員及傭人表

種別	人員	月俸額
事務雇 月俸參拾圓以上ノモノ 男	五	三四五圓〇〇〇
事務雇 月俸參拾圓以上ノモノ 女	一	四七〃〇〇〇
事務雇 月俸參拾圓以上ノモノ 計	六	
合計	六	三九二〃〇〇〇
巡視 男	一	四三〃五〇〇
巡視 女		
巡視 計	一	四三〃五〇〇
火夫 男	二	九四〃五〇〇
火夫 女		
火夫 計	二	九四〃五〇〇
小使 男	八	二四三〃〇〇〇
小使 女	二	四三〃五〇〇
小使 計	一〇	二八六〃五〇〇
掃除婦 男		
掃除婦 女	一	二五〃五〇〇
掃除婦 計	一	二五〃五〇〇
給仕 男		
給仕 女	三	五七〃〇〇〇
給仕 計	三	五七〃〇〇〇
合計	一七	五〇七〃〇〇〇
總計	二三	八九九圓〇〇〇

四、休職員表

本表ニ屬スルモノナシ

五、傭外國人表

國名		氏名	受持學科	報酬年額
墺地利	男	レオ・シロタ	ピアノ	五、四〇〇圓
獨逸	男	クラウス・プリングスハイム	合唱歌・管絃樂	六、〇〇〇〃
獨逸	男	ヘルマン・ヴーハーペニヒ	獨唱歌	五、四〇〇〃
獨逸	女	マリア・トル	獨唱歌	五、四〇〇〃
墺地利	男	ローベルト・ポラック	ヴァイオリン	五、四〇〇〃
墺地利	男	パウル・ワインガルテン	ピアノ	九、〇〇〇〃
總計				三六、六〇〇〃

六、學校衛生職員表

種別	人員	手當年額
醫	一	―
生徒保健事務囑託	二	―
總計	三	―

昭和十一年度東京音樂學校年報乙號表

一、生徒表

學科	性別	本科 作曲部 女	男	本科 器樂部 女	男	本科 聲樂部 女	男	計 女	男	研究科 作曲部 女	男	研究科 器樂部 女	男	研究科 聲樂部 女	男
第一學年			三	二三	九	一〇	一	一三	六	一	一	一一	四	一	一
第二學年			三	二一	六	七	三	七	二			六	二	一	
第三學年		一	一	一七	五	五	三		一		一				
第四學年															
合計 貸費															
合計 給費															
合計 自費		一	七	六〇	二〇	二三	七	二〇	九	一	二	一七	六	二	一
合計 計		一	七	六〇	二〇	二三	七	二〇	九	一	二	一七	六	二	一
入學 志願者			三	二三	八	一〇	一	一三	六	一	一	一一	四	一	一
入學 入學者			三	二三	八	一〇	一	一三	六	一	一	一一	四	一	一
卒業		一	一	一七	五	五	三	七	三		一	六	二	一	
退學				一				一						一	
死亡					一										

學科	性別	第一學年 女	男	第二學年 女	男	第三學年 女	男	第四學年 女	男	計 女	男	邦樂科 女	男	甲種師範科 女	男	豫科 女	男	聽講生 女	男	能樂囃子科 女	男	唱歌 女	男	ピアノ 女	男
第一學年		二三	一〇	二八	一四	二五	一七	一二	五	三二	一三			二五	一七	二八	一四	二二	一〇			二九	一八	一三二	一六
第二學年		五	八			二六	一二			二八	一二			二六	一二			五	八			三二	一九	一七三	一二
第三學年						二三	一六			二三	九			二三	一六							一〇	八	一一六	八
第四學年																					六		七	二五	
合計 貸費																									
合計 給費																					六				
合計 自費		二七	一八	二八	一四	七四	四五	一二	五	八三	三四			七四	四五	二八	一四	二七	一八			七八	四五	四四六	三六
合計 計		二七	一八	二八	一四	七四	四五	一二	五	八三	三四			七四	四五	二八	一四	二七	一八		六	七八	四五	四四六	三六
入學 志願者		二二	一〇	一三四	六四	一七一	一〇五	二五	八	三三	一二			一七一	一〇五	一三四	六四	二二	一〇			四七	三四	一九五	二五
入學 入學者		二二	一〇	二八	一四	二五	一七	一三	五	三三	一二			二五	一七	二八	一四	二二	一〇			四七	三三	一九〇	二五
卒業		二	三	二八	一四	二三	一五			二三	九			二三	一五	二八	一四	二	三		二	六	二	三八	二
退學		一七	六			一		一		一				一				一七	六			三二	三四	一四三	二二
死亡											一														

昭和十一年度東京音樂學校年報乙號表　半途退學明細表

類別	家事係累	病氣	入營	職務ノ都合	學修ノ都合	本入學不許可	諭旨退學	除名	在外研究	死亡	年限滿了	計
性別	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男
選科	一 一	一 一		一 一	九 一			一 一		一	六 四	二 一
	〇 五	五 七		三 三	九 一			九 一				四 二
嚬能樂子科												
聽講生	九 二							二			六 四	一 六
豫科												
甲種師範科		一										一
邦樂科	一											一
科本 計	一										一	一 一
科本 作曲部												
科本 器樂部	一										一	一 一
科本 聲樂部												
科究研 計	一											一
科究研 作曲部												
科究研 器樂部												
科究研 聲樂部	一											一
合計	一 一	一 一		一 一	九 一			一 一		一	六 四	二 一
	四 七	六 七		三 三	九 一			九 一				六 五

昭和十一年度東京音樂學校年報乙號表　入學試驗合格者　修業學校別表

類別	邦樂科	甲種師範科	豫科
師範學校・卒業		六	
中學校・卒業	三	一一	六

合計	選科	嚬能樂子科	聽講生	豫科	甲種師範科	邦樂科	科本 計	科本 作曲部	科本 器樂部	科本 聲樂部	科究研 計	科究研 作曲部	科究研 器樂部	科究研 聲樂部	類別
女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	性別
一一 一一	一一		九 二			一	一		一		一			一	家事係累
四 七	〇五														
一 一	一一				一										病氣
六 七	五七														
															入營
一 三	一 三														職務ノ都合
九 一	九 一														學修ノ都合
															本入學不許可
															諭旨退學
一一 九一	一一 九一		二												除名
九 七															在外研究
															死亡
一															年限滿了
六 四			六 四				一		一						
二一 一一	二一 一一		一六		一	一	一一		一一		一			一	計
六 四	四 七		七												

合計 女	合計 男	計 女	計 男	長唄 女	長唄 男	仝(三絃)(仝) 女	仝(三絃)(仝) 男	仝(箏)(生田流) 女	仝(箏)(生田流) 男	仝(三絃)(仝) 女	仝(三絃)(仝) 男	箏曲(箏)(山田流) 女	箏曲(箏)(山田流) 男	仝(太鼓) 女	仝(太鼓) 男	仝(小鼓) 女	仝(小鼓) 男	仝(仕舞) 女	仝(仕舞) 男	能樂(謠) 女	能樂(謠) 男	作曲 女	作曲 男	管 女	管 男	セロ 女	セロ 男	ヴァイオリン 女	ヴァイオリン 男	オルガン 女
三五四	一四四	二二二	六九	二〇	一	一		一一	二			一〇		一		二		二	一	六	七		八				二	八	一二	
三五一	一一二	二八五	七八	三一	一	三		八		一		八		一	一	二	一	一	三	五	一六	五	一三		二		一	一三	九	二
二二七	八〇	一八一	五四	二二	一	一		五				二				二	一	三	三	一〇	二三	二	五				二	六	三	二
四七	八	四七	二	八	二			一				三										一						一		一
	六																													
九七九	三二八	七三五	二〇三	八一	五	五		二五	二	一		二三		二	一	六	二	六	七	二一	四六	八	二六		二		五	二八	二四	五
九七九	三三四	七三五	二〇三	八一	五	五		二五	二	一		二三		二	一	六	二	六	七	二一	四六	八	二六		二		五	二八	二四	五
七三三	三二〇	三三五	一一五	二七	一	四		一七	三	一		一八		一	一	一	一	二		七	八		一二		四		一	一五	二二	
四六一	一七三	三二七	一〇九	二七	一	四		一五	二	一		一八		一	一	一	一	二		七	八		一一		三		一	一四	二〇	
一五七	六五	七四	一九	一七	二			三				五				一	一				九		一			一		三	二	
二六五	一二三	二四四	一一七	三五	一	一		一〇				七			一		三	二	五	五	一四	一	一五		三		三	八	一五	
	一																													

昭和十一年度東京音樂學校年報乙號表

一、臺灣人生徒表

類別	最大	最小	平均	人員
邦樂科 男	二三、六	一九、〇	二一、〇	五
邦樂科 女	二六、四	一六、六	二〇、一一	一三
甲種師範科 男	二三、六	一七、五	二〇、八	一七
甲種師範科 女	二〇、九	一七、二	一八、八	二五
豫科 男	二七、一一	一六、四	二〇、一一	一四
豫科 女	二三、一	一七、二	一八、四	二八

昭和十一年度東京音樂學校年報乙號表 入學試驗合格者年齡表

中學校・四年修了				五
高等學校尋常科・修了				一
高等普通學校・卒業				一
實業學校・卒業	二			
中華民國中學校・卒業				一
高等女學校・卒業	一二	二五		二四
高等女學校・四年修了	一			三
女子學習院・卒業				一
合計	一八	四二		四二

二、朝鮮人生徒表

學科	選科 ピアノ 男	選科 ピアノ 女	選科 オルガン 男	選科 オルガン 女	計 男	計 女
第一學年						
第二學年			一	一	一	
第三學年						
第四學年						
合計 貸費						
合計 給費						
合計 自費			一	一	一	
合計 計			一	一	一	
入學 志願者						
入學 入學者						
卒業						
退學		一			一	
死亡						

三、滿洲國人生徒表

學科	本科 聲樂部 男	本科 聲樂部 女	本科 器樂部 男	本科 器樂部 女	本科 作曲部 男	本科 作曲部 女	計 男	計 女	豫科 男	豫科 女	選科 唱歌 男	選科 唱歌 女	選科 ピアノ 男	選科 ピアノ 女	選科 ヴァイオリン 男	選科 ヴァイオリン 女	計 男	計 女
第一學年	一						一		一		一		一		二		四	
第二學年			一				一				二				二		四	
第三學年															一		一	
第四學年																		
合計 貸費																		
合計 給費																		
合計 自費	一	一	一				二		一		三		一		五		九	
合計 計	一	一	一				二		一		三		一		五		九	
入學 志願者	一						一		一三		一		一		二		四	
入學 入學者	一						一		一		一		一		二		四	
卒業									一									
退學																		
死亡																		

學科	選科 唱歌 男	選科 唱歌 女	選科 ピアノ 男	選科 ピアノ 女	計 男	計 女
第一學年						
第二學年	一	一	一		二	
第三學年						
第四學年						
合計 貸費						
合計 給費						
合計 自費	一	一	一		二	
合計 計	一	一	一		二	
入學 志願者						
入學 入學者						
卒業						
退學						
死亡						

四、中華民國人生徒表

學科	豫科	選科 唱歌	選科 ピアノ	選科 ヴァイオリン	選科 作曲	計
	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男	女 男
第一學年	一	一	一	一 一		一 三
第二學年			一		一	一 一
第三學年						
第四學年						
合計 貸費						
合計 給費						
合計 自費	一	一	二	一 一	一	四 二
合計 計	一	一	二	一 一	一	四 二
入學 志願者	三 一	一	一	一 一		三 一
入學 入學者	一	一	一	一 一		三 一
卒業	一					
退學		一		二	一	一 三
死亡						

五、暹羅國人生徒表

學科	選科 ピアノ	選科 作曲	計
	女 男	女 男	女 男
第一學年			
第二學年	一	一	二
第三學年			
第四學年			
合計 貸費			
合計 給費			
合計 自費	一	一	二
合計 計	一	一	二
入學 志願者			
入學 入學者			
卒業			
退學			
死亡			

六、佛國人生徒表

學科	選科 ピアノ	計
	女 男	女 男
第一學年		
第二學年	一	一
第三學年		
第四學年		
合計 貸費		
合計 給費		
合計 自費	一	一
合計 計	一	一
入學 志願者		
入學 入學者		
卒業		
退學		
死亡		

七、米國人生徒表

學科	選科 唱歌	選科 ピアノ	計
	女 男	女 男	女 男
第一學年	一	一	二
第二學年			
第三學年			
第四學年			
合計 貸費			
合計 給費			
合計 自費	一	一	二
合計 計	一	一	二
入學 志願者	一	一	二
入學 入學者	一	一	二
卒業			
退學			
死亡			

二、生徒卒業後ノ狀況表

種別	本校職員		本校 再入學（研究科）		本校 再入學（其他）		官立學校教員		師範學校教員		中學校教員		高等女學校教員		小學校教員		實業學校教員	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
元音樂取調掛																		
元尊修部	二	三					一			二			二	四		二		
元師範部										一		二	一	二	一	二		
聲樂部	九	五	一四	三	六	一	二	一	一	二		一	二七 三	一六		三		二
器樂部	一三	二七	二六 五	一三 二	一三 五	一九 三	三	二	六	六		五	二三 二	一八 一	二	五 二		
作曲部													一					一
甲種師範科	一	四				一	四	三	二九	七四 四		一七	二四五 一三	六二 一一	一四	二四 一	一	一
乙種師範科					二	一							一五	五		二		
元小學唱歌講習科																		
研究科	二〇 一	二二 一					三	二	一	三		一五	一三 一	一二	一	一		
選科																		
能樂囃子科																		
計	五九 一	四七 一	一六 二	四〇 六	二二 三	二一 五	一 三	八	三七	八八 四		三〇 一	三二六 一九	九九 一四	一八	三九 三	一三	

學科	選科 唱歌	選科 ピアノ	計
	女 男	女 男	女 男
第一學年	一	一	二
第二學年			
第三學年			
第四學年			
合計 貸費			
合計 給費			
合計 自費	一	一	二
合計 計	一	一	二
入學 志願者	一	一	二
入學 入學者	一	一	二
卒業			
退學			
死亡			

	各種學校教員		私立大學教員		官公吏		在外研究者		實業者		藝術者		家庭		無職		不詳		死亡		合計	
	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男
		二		一								一	三			二		一	三	六	七	一三
		一				一				一			一九				四	四	一一	一四	四二	三二
		二								三			九				一	五	六	一七	一八	三五
	一〇	六				二	一	二			八	四	三四		四		五	一	六	四	一二七	四三
	八	一一				二	二	一一		二	七	一二	一〇七		四		二八	二七	一八	一五	二六〇	一六三
																					一	一
	四	六				四				一			一六九		五	五	三七	六	四〇	一五	五五一	二二三
		一															二二八	一〇九	二一	一四	二六六	一三二
																	三一	二二			三一	二二
	一四	七				一	三	三	一	一一	一一	二八		一		二		九	六	四	一〇三	七四
																	五二七	一四一	三	二	五三〇	一四三
										二五							支二 六四	二〇		三	支二 六四	二〇 二八
	三九	三六	一	一		一〇	六	一六	一	一〇	二六 二	五四 一	三六九 九	一	一三	九	八六一 支二 六四	三二五 二〇	一四	九二 一	九〇八 五一	一、九三五 支二 一〇七

〔表中の「支」は支那人の意。また表中「高等女學校教員」の「女」、「實業學校教員」の「男」および「合計」の「男」「女」には「作曲部」欄に人数が記入されているが、おのおのの「計」（最下段）にそれらを含まない数字になっている）

昭和十一年度東京音樂學校年報丙號表

一、第一土地表

位置	所用名	坪數	價格
東京市下谷區上野公園西四軒寺跡	東京音樂學校	三、八五八坪	五四〇、〇七一圓
東京市本郷區湯島三丁目二十四番地	同　上	一、九六〇〃	三九二、〇〇〇〃
東京市神田區駿河臺二丁目九番地	同校分教場	七四八〃	一四九、五七二〃
東京市牛込區市ヶ谷加賀町一丁目十四番地	同校官舍	一七八〃	一四、二〇八〃
總計		六、七四四〃	一、〇九五、八五一〃

二、第二土地表

本表ニ屬スルモノナシ

三、建物表

種別	木造 二階	木造 平家	煉瓦造 二階	煉瓦造 平家	鐵筋コンクリート造 二階	鐵筋コンクリート造 平家	建築費	價格
事務所	四二〇四	二二六〇二五			〇六	〇三三	本校	六四、九七一圓
教場	二九四〇四九	二七二〇五二			〇一〇一	〇五〇	分教場木造部	〇四二、一九〇〃
練習室	一四	七一					分教場鐵筋コンクリート部	〇七二、五九二〃
奏樂堂	一四三							
能樂堂	〇四七	〇四七						
調律室		四						
生徒控室		五二				〇一八		
食堂		二六						
倉庫及物置		四三〇九	二四	二四				
門衛詰所 供侍應ノ類		二一〇八						
汽關室		二八				〇一〇		

寄宿舍	一三五	二四八					三三、八五二〃	三三、八五二〃
官舍 本舍	一六	二八					五、一二六〃	五、一二六〃
總計	六四四 ◦一〇〇	一、〇一九 ◦一四一	二四	二四	◦一〇七	◦一一一	一〇三、九四九〃 一一四、七八二〃	一〇三、九四九〃 一一四、七八二〃

音庶第四四七號　裁決定十月一日　發送 昭和拾貳年拾月壹日

昭和十二年十月一日起案

年　月　日　　　　學　校　長

文部大臣宛

昭和十一年度年報乙款丁號表別紙及提出候也

一、資　金

維持資金中現金ハ預金部預金トシ有價證券ハ一部甲種國債登錄ヲナシ他ハ日本銀行ニ寄託シテ保管ノ確實ヲ期シ併セテ利殖ヲ圖レリ。

一、入學料、授業料等

入學料、授業料、寄宿料ノ徴收金額ハ適當ト認ム。授業料、寄宿料ハ一ヶ年三期ニ分納セシム。徴收方法ハ收入官吏ニ直接納付セシム、其ノ状況概シテ良好ナリ。

一、經費、歳入歳出

本年度經費ノ決算ハ歳入貳拾參萬八千貳百六拾九圓、歳出貳拾參萬八千貳百六拾九圓ニシテ前年度ニ比シ歳入ニ於テ參千百拾參圓ヲ、歳出ニ於テ參千百拾參圓ヲ増加セリ前者ニ在リテハ主トシテ生徒數ノ増加ニ伴フ授業料ノ増收ニ依リ後者ハ俸給、校館費支出ノ増加ニ依ル

昭和十一年度東京音樂學校年報丁號表

一、經　費　表

歳入			種別	金額
經常部			政府支出金受入	一五五、八四六圓
	諸收入		授業料	六六、〇八六
			入學料	三〇六
			檢定料	三、八九七
			維持費金利子	四、一八一
			寄宿料	二、三九一
			土地家屋賃貸料	二八八
			恩給法納金	九六九
			雜收入	四、三〇五
			計	八二、四二三
			合計	二三八、二六九
臨時部				
			總計	二三八、二六九

歳出		種別	金額
經常部		俸給	八九、五五六圓
		校館費	一〇六、四四五
		傭外國人諸給	四二、二六八
		合計	二三八、二六九
臨時部			
		總計	二三八、二六九

二、資金表

種別	金額	種別	金額
現金	五九圓	特別資金	
有價證券	八一、二九三		
土地	一、〇五三、三八八		
建物	二一八、七三〇		
合計	一、三五三、四七〇		
維持資金			
總計	一、三五三、四七〇		

三、備品價格表

種別	價格	種別	價格
器具	五五、九一〇圓	標本	二一九圓
機械	三九一、七四三	文具	二、〇三三
圖書	五六、二一一	總計	五〇六、一一六

〔手書き〕（『自昭和二年至同十二年　東京音樂學校年報』）

昭和十二年～十三年

前年度で言及され十二年四月一日改正された学則を掲げる。

第四　學　則

第二章　本　科

第六條　第三條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルヘシ獨唱、ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、セロ、ヴィオラ、ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バッスーン、ホーン、トロンボーン、トランペット、美學、音聲學、音響學、佛語、伊語

第三章　師　範　科

第八條　師範科ヲ分チテ甲種師範科及乙種師範科トス其ノ學科目左ノ如シ

甲種師範科　修身、唱歌、ピアノ、音樂通論、和聲學、音樂史、教育學、音樂教授法、國語、英語、體操及遊戯

乙種師範科　修身、唱歌、オルガン又ハピアノ、音樂通論、音樂教授法、國語、體操及遊戯

第十條　甲種師範科、乙種師範科ノ各學科目ノ毎學年配當竝毎週教授時數左ノ如シ

學年 ／ 學科目	甲種師範科 第一學年	甲種師範科 第二學年	甲種師範科 第三學年	乙種師範科
修身	一	一	一	一
唱歌	六	六	六	一〇
器樂	二	二	二	三
音樂通論	二	一	一	二
和聲學	一	二	二	一
音樂史	二	二	一	一
教育學	二	二	一	一
音樂教授法	一	一	二	一

國語	三	三	三	三
英語	三	三	三	—
體操及遊戯	二	二	二	二
計	二三	二三	二一	二一

甲種師範科生徒ニシテ國語科教員志望ノ者ニハ別ニ國語及漢文一週五時間ヲ課ス

第十一條　甲種師範科ニ在リテハ第八條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルヘシ

オルガン、ヴァイオリン、管樂、美學、音聲學、音響學、獨語

第三章ノ二　邦樂科

第十三條ノ五　邦樂科ニ在リテハ第十三條ノ二ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルヘシ

洋樂、舞踊、美學、教育學、音聲學、音響學

第五章　研究科

第二十條　第十八條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルヘシ

ピアノ、唱歌、管絃樂用器樂、舞踊、總譜視奏法、外國語（英語、獨語、佛語、又ハ伊語）、國文學、外國文學、美學、音聲學、音響學

研究科ニ於テ管樂又ハ絃樂ヲ修ムル者ニハ管絃樂合奏、其他ノ者ニハ合唱ヲ課ス

（『東京音樂學校一覧　自昭和十二年至昭和十三年』四六～五五頁）

昭和十三年～十四年

『東京音樂學校一覧　自昭和十三年至昭和十四年』の「沿革略」の最終行には、「本年度東京音樂學校一覧ハ前年度一覧ノ補遺ノミ刊行ス」と書かれている。実際、この年度の『一覧』は「第一　沿革略」の次が「第十二　職員」となり、以下「第十三　生徒」「第十四　卒業生及修了生」「第十五　奬學資金」「第十六　敷地建物」「第十七　出版圖書目録」を掲載している。この年度には規則改正はなく、したがって該当項目は全削除されている。五月に職員の定員が増員され、九月には「樂語調査促進ノタメ樂語調査掛職員ヲ新タニ任命ス」とある（前掲書　二頁）。これらは職員の項目にその実際が記載されている。

また昭和十三年度は、学内に保存されている学事年報の最終年度でもある。次に昭和十三年度年報全体を掲げる。

照文五號

昭和十四年六月十二日　　文部大臣官房文書課長印

東京音樂學校長殿

昭和十三年度年報進達ノ件

標記年報ハ去月二十日限リ進達可有之ニ付至急御提出相成度

照文五號

昭和十四年七月十一日　　文部大臣官房文書課長印

東京音樂學校長殿

昭和十三年度年報進達ノ件

標記ノ件ニ關シテハ去月十三日照文五號ヲ以テ照會致シ置キタルニ不拘ラ今提出無之就テハ本省ニ於テ處理上差支不尠ニ付至急御差出相成度

追テ本月十五日迄ニ御提出相成難キ場合ハ進達豫定期日折返御回報有之度

音庶第一四五號　發送七月一二日

昭和十四年七月一二日起案

年　月　日

學校長

文部大臣官房文書課長關口勳殿

昭和十三年度本校學事年報及通達致也

昭和十三年度學事年報　東京音樂學校

東京音樂學校職員

學校	勅任官											
	學校長		教授		計							
性別	人員	俸給年額	人員	俸給年額	人員	俸給年額						
東京音樂學校 男	一	五、二五〇	一	三、〇五〇	二	八、三〇〇						
東京音樂學校 女		—		—		—						
東京音樂學校 計	一	五、二五〇	一	三、〇五〇	二	八、三〇〇						

奏任官												
教授			生徒主事		計							
人員	俸給年額	人員	俸給年額	人員	俸給年額	人員	俸給年額					
一八	三〇、七三〇	一	三、〇五〇	一九	三三、七八〇	九	八、一〇〇					
五	九、〇一〇		—	五	九、〇一〇	△一七	五、二八六					
二三	三九、七四〇	一	三、〇五〇	二四	四二、七九〇	△一六	一三、三八六					

判任官												
生徒主事補		書記		技手		計						
人員	俸給年額	人員	俸給年額	人員	俸給年額	人員	俸給年額					
	—	△一八	七、〇八〇	一	一、〇二〇	△一八	一六、二〇〇					
一	一、三二〇		—		—	△一八	六、六〇六					
一	一、三二〇	△一八	七、〇八〇	一	一、〇二〇	△二六	二二、八〇六					

雇員		囑託員		傭外國人		合計	
人員	俸給年額	人員	俸給年額	人員	俸給年額	人員	俸給年額
四	二、九四〇	七五	二〇、一六〇	七	二九、七六〇	△一二五	一一一、一四〇
四	一、五三六	三七	一四、〇〇〇	一	五、四〇〇	△一五五	三六、五五二
八	四、四七六	二二	三四、一六〇	八	三五、一六〇	△二一八〇	一四七、六九二

本表助教授女△一ハ在外研究員、書記男△一ハ兼任書記、囑託員中ニハ講師教務囑託事務囑託學校醫ヲ、傭外國人中ニハ傭外國人教師〔ヲ計入ス〕

東京音樂學校傭外國人國別

年度	獨	瑞典	波蘭	蘇聯	合計	俸給年額
昭和十三年度	△一 五	一	一	一	八	三五、一六〇

本表中ニハ外國人講師ヲ計入ス、△ハ女

Leo Sirota. Hermann Wucherpfennig.
Hermut Fellmer. △Ria von Hessert.
Willy Frey. Roman Dukstulsky.
Leonid Kreutzer. Alexander Moguirewsky.

休職員

該當者ナシ

東京音樂學校教員 生徒卒業者 入學志願者 入學者 退學者及死亡者

年度	性別	教員 教授	助教授	囑託	外國人教師	計
昭和十三年度	男	△一 二〇	△三 一二	△一 七三	七	△五 一一二
	女	五	△一 七	三七	一	△一 五〇
	計	△一 二五	△四 一九	△一 一一〇	八	△六 一六二

性別	生徒	卒業者	入學志願者	入學者	退學者及死亡者
男	三一三	八二	二七四	一六八	一〇五
女	一、〇九一	二〇五	七七二	五三〇	三三二
計	一、四〇四	二八七	一、〇四六	六九八	四三七

本表教授△一ハ兼任教授、助教授男△三ハ兼任助教授、助教授女△一ハ在外研究員、囑託男△一ハ兼擔囑託、卒業者中ニハ豫科卒業者研究科選科聽講生及能樂囃子生徒修了者ヲ計入ス

入學志願者及入學者中ニハ豫科卒業者及本科卒業者ヲ計入ス

東京音樂學校生徒、卒業者 入學志願者 入學者 退學者及死亡者 學科別

種別	本科 聲樂部 男	聲樂部 女	器樂部 男	器樂部 女	作曲部 男	作曲部 女	計 男	計 女	豫科 男	豫科 女	甲種師範科 男	甲種師範科 女	邦樂科 男	邦樂科 女
生徒 別性														
生徒 總數	九	二四	二一	△一 六六	△一七	一	三七	九一	一七	三五	五二	八二	八	四五
生徒 學年別(再掲) 第一學年	四	六	五	二六	△一三	—	一二	三二	一七	三五	二五	二五	二	一六
生徒 學年別(再掲) 第二學年	三	七	七	△一 二〇	一	一	一一	二八	—	—	一一	三一	二	一六
生徒 學年別(再掲) 第三學年	二	一一	九	二〇	三	—	一四	三一	—	—	一六	二六	四	一三
卒業者	二	一一	九	二〇	三	—	一四	三一	一六	三四	一五	二六	四	一三
入學志願者	四	△一六	△一五	二七	二	—	一一	三三	五九	一二八	七五	一六五	一	一八
入學者	四	六	五	二七	二	—	一一	三三	一六	三四	二五	二五	一	一六
退學者及死亡者	—	—	一	一	—	—	一	一	—	—	三	一	—	—
入學歩合	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	—	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	二七・〇〇	二六・五六	三三・三〇	一五・一五	一〇〇・〇〇	八八・八九

種別	選科		聽講生		能樂囃子生徒		總計	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女
生徒 總數	一六八 △三	七六九	一六	四二	五	—	三一三 △四	一、〇九一 △一
生徒 學年別（再揭） 第一學年	六四 △一	三〇九 △二	七	一四	三	—	一三五 △二	四四八 △二
生徒 學年別（再揭） 第二學年	六三 △二	二六三 △三	九	一・二八	二	—	一〇三 △二	三七六 △五
生徒 學年別（再揭） 第三學年	三七	一四四					七一	二一四
生徒 學年別（再揭） 研究生	四	五三	—	—	—	—	四	五三
卒業者	二二	六九	三	五	二	—	八一	一八八
入學志願者	一一〇	三八九 △一	一〇	二二	三	—	二七四	七七二 △二
入學者	九七	三八三 △一	一〇	二二	三	—	一六八	五三〇 △一
退學者及死亡者	九六 △一	三〇五	五	一九	—	—	一〇五 △一	三三二
入學歩合	八八・一八	九八・四六	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	—	六一・三一	六八・六五

本表本科ニ係ル入學志願者入學者ハ總テ豫科修了者ノ進入シタルモノナリ、

乙種師範科ハ昭和二年度ヨリ募集セズ、△ハ外國人

研究科聽講生ニ係ル入學志願者入學者ハ總テ本科卒業者ノ進入シタルモノナリ、

科究研								
聲樂部		器樂部		作曲部		計		
男	女	男	女	男	女	男	女	
四	九	五	一七	一	一	一〇	二七	
二	五	三	一二	—	—	五	一七	
二	四	二	五	一	一	五	一〇	
—	—	—	—	—	—	—	—	
二	四	二	五	一	一	五	一〇	
二	五	三	一二	—	—	五	一七	
二	五	三	一二	—	—	五	一七	
—	二	—	四	—	—	—	六	
一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	—	—	一〇〇・〇〇	一〇〇・〇〇	

東京音樂學校本科師範科及選科ニ係ル生徒卒業後ノ狀況

昭和十三年度		
別性	男	女
藝術從事者		
本校職員	△一	
師範學校教員	四	四
中學校教員	三	
高等女學校教員	一二	二七
小學校教員	四	
其他ノ學校教員	△四三	一二

本表△ハ兼務兼業ヲ表ス、本表昭和十三年度ハ昭和十二年度卒業者ノ年度内三月一日（卽チ昭和十四年三月一日）ノ狀況ナリ、以下各年度亦之ニ準ズ、

別性		男	女
本校生徒	研究科	五	一九
	其他		四
外國留學			
其他ノ業務者			七一
就職未定ノ者		二	八
合計		四〇 △四	一四五

東京音樂學校豫科師範科及邦樂科ニ係ル入學志願者入學者

昭和十三年度		
別性	男	女
入學志願者 豫科	五九	一二八
入學志願者 甲種師範科	七五	一六五
入學志願者 邦樂科	一	一八
入學者 豫科	一六	三四
入學者 甲種師範科	二五	二五
入學者 邦樂科	一	一六

別性		男	女
入學歩合	豫科	二七・一二	二六・五六
	甲種師範科	三三・三三	一五・一五
	邦樂科	一〇〇・〇〇	八八・八八

東京音樂學校豫科師範科及邦樂科ニ係ル入學者從前ノ教育

年度	科別	中學校卒業者	師範學校卒業者 男	師範學校卒業者 女	高等女學校卒業者	中學校第四學年修了者
昭和十三年度	豫科	一二	—	—	二五	三
	甲種師範科	一五	一〇	一	二四	—
	邦樂科	一	—	—	一三	—

東京音樂學校豫科師範科及邦樂科ニ係ル入學者ノ年齢

科別	高等女學校第四學年修了者	高等學校尋常科卒業者	實業學校卒業者	專門學校入學者檢定試驗ニ依ル者 男	專門學校入學者檢定試驗ニ依ル者 女	合計 男	合計 女
豫科	九	—	一	—	—	一六	三四
甲種師範科	—	—	—	—	—	二五	二五
邦樂科	三	—	—	—	—	一	一六

年度 昭和十三年度	性別 豫科 最長 男	豫科 最長 女	豫科 最少 男	豫科 最少 女	豫科 平均 男	豫科 平均 女	甲種師範科 最長 男	甲種師範科 最長 女	甲種師範科 最少 男	甲種師範科 最少 女	甲種師範科 平均 男	甲種師範科 平均 女
	二四・一	二三・〇	一七・一	一七・二	二一・〇	二〇・八	二五・八	二二・〇	一七・九	一七・一	二一・九	二〇・六

昭和十三年度中東京音樂學校本科豫科師範科及邦樂科生徒ニシテ半途ニテ退學シタル者ノ事由及死亡シタル者ノ學科別

學科	性別	半途退學者事由別 家事係累	疾病	學業不振等	性行不良	計	死亡者	退學歩合	死亡歩合
本科	男	一				一		二・七〇	
	女		一			一		一・一〇	
豫科	男								
	女								
甲種師範科	男		一		一	二	一	三・八五	一・九二
	女							一・二二	
邦樂科	男								
	女								

學校衛生

種別	設置學校 官立	設置學校 計	人員 官立	人員 計	手當年額 官立	手當年額 計
學校醫 東京音樂學校	一	一	一	一	—	—
學校歯科醫 同右	—	—	—	—	—	—
學校看護婦 同右	—	—	—	—	—	—

第四七表　專門學校（官立）　昭和十三年度

省府縣 學校	教員 男	教員 女	教員 合計	生徒 男	生徒 女	生徒 合計	卒業者 男	卒業者 女	卒業者 合計
東京音樂學校 一	一一二（七）	五〇（一）	一六二（八）	三一三	一、〇九一	一、四〇四	八二	二〇五	二八七

入學志願者 男	入學志願者 女	入學志願者 合計	入學者 男	入學者 女	入學者 合計	退學者 男	退學者 女	退學者 合計
二七四	七七二	一、〇四六	一六八	五三〇	六九八	一〇五	三三二	四三七

本表（　）内ノ數字ハ外國人ナリ
卒業者中ニハ豫科卒業者研究科選科聽講生及能樂囃子生徒修了者ヲ計入ス、入學志願者及入學者中ニハ豫科卒業者本科卒業者ヲ計入ス

第八七表　學校衛生職員（官立）

省道府縣	專門學校醫	官立	學校	人員	手當年額
東京音樂學校	一	一	—
省道府縣	專門學校齒科醫	官立	學校	人員	手當年額
東京音樂學校	—	—	—
省道府縣	專門學校看護婦	官立	學校	人員	手當年額
東京音樂學校	—	—	—

附錄第一表　文部省直轄學校別一覽

名稱	位置	教員	學生生徒	卒業者
東京音樂學校	東京市下谷區上野公園西四軒寺跡	一一九 × 七 女 五一 女× 一	三一三 × 四 女一、〇九一 女× 一	八二 女 二〇五

經費		
經常部	臨時部	計
二四四、二四〇	—	二四四、二四〇

本表×印ハ外國人
卒業者中ニハ豫科卒業者研究科選科聽講生及能樂囃子生徒修了者ヲ計入ス

音會一六六號
昭和十四年九月四日起案

年　月　日　　學校長

文部大臣宛

昭和十三年度年報乙款丁號表別紙及提出候也

一、資金

維持資金中現金ハ預金部預金トシ有價證券ハ一部甲種國債登錄ヲナシ他ハ日本銀行ニ寄託シテ保管ノ確實ヲ期シ併セテ利殖ヲ圖レリ

一、入學料、授業料等

入學料授業料寄宿料ノ徵收金額ハ適當ト認ム。授業料寄宿料ハ一ヶ年三期ニ分納セシム。徵收方法ハ收入官吏ニ直接納付セシム其ノ狀況概シテ良好ナリ。

一、經費歲入歲出

本年度經費ノ決算ハ歲入貳拾四萬六千四百六拾五圓、歲出貳

拾四萬四千貳百四拾圓ニシテ前年度ニ比シ歳入ニ於テ貳萬五千五拾五圓、歳出ニ於テ貳萬四千百貳拾九圓減少セリ。右ハ主トシテ傭外國人教師ノ來航及歸國旅費ノ減少ニ依ル。

昭和十三年度東京音樂學校年報丁號表

一、經費表

種別	金額
歳入	
經常部	
諸入收	
政府支出金受入	一五七、八七四圓
授業料	七一、三三九
入學料	三五一
檢定料	三、七六四
維持資金利子	四、一七一
寄宿料	二、一六六
土地家屋賃貸料	一三七
恩給法納金	一、三四四
雜收入	五、三一九
計	八八、五九一
合計	二四六、四六五
臨時部	
總計	二四六、四六五

種別	金額
歳出	
經常部	
俸給	一〇一、六五八圓
校館費	一〇六、四九八
傭外國人諸給	三六、〇八四
合計	二四四、二四〇
臨時部	
總計	二四四、二四〇

二、資金表

種別	金額
維持資金	
現金	三、三一一圓
有價證券	八一、二九三
土地	一、〇九五、八五一
建物	二二九、八五五
合計	一、四一〇、三一〇
總計	一、四一〇、三一〇

種別	金額
特別資金	

三、備品價格表

種別	價格
器具	五九、八一八圓
機械	四四一、五九三
圖書	六〇、一一六
標本	二一九圓
文具	二、三四九
總計	五六四、〇九五

〔手書き〕

昭和十四年〜十五年

前年度に引き続き、昭和十五年三月十五日付で『東京音樂學校一覽補遺　自昭和十四年至昭和十五年』が発行される。

またこれとは別に『東京音樂學校諸規則　自昭和十四年至昭和十五年』が発行されている。発行年月日は印刷されていないため正確なところは不明であるが、「學則」に「昭和十五年五月二日改正」と記されていることから、同年月日の文部省令の発令を待って発行されたと考えられる。『一覽』の従来の編集方法からすれば、これは次年度に記載され

る内容であろう。しかしながら、『一覧』の発行時期が、昭和初期には遅くとも年度半ば頃であったのが次第にずれこんで年度末になり、四月一日改正を目指して手続きが進められていたなどの理由により、文部省令の公布を待って十四年度に収めたとも考えられる。

ここでは昭和十四年度分の事項と、十五年三月に行われた改正手続きの資料を掲げ、それ以降は次年度で扱う。

「沿革略」によれば「九月　體操科ノ一部トシテ女生徒ニ薙刀術及律動運動ヲ課ス」とあるが（二頁）、カリキュラムの中で確認することはできない。「同月　女生徒基準服ヲ制定實施ス」「十二月　音聲研究部細則ヲ改正ス」。これらについては二および三の項でそれぞれ扱う。

以下、十五年三月に行われた規則改正に関する資料を掲げる。

東京音楽学校が改正のために作成した文書が二通残されている。

まず「音庶第四七號ノ一」は「東京音樂學校規程」中の改正に関するものであり、もう一通の「音庶第四七號ノ二」はこれに伴う「學則」の改正ならびに選科規程の改正に関するものである。二通の日付は同一であり、これらに対する文部省からの「省令案」と「指令案」も同日起案となっている。

音庶第四七號ノ一、

本校規程中改正ノ件上申

明治四十二年文部省令第十三號東京音樂學校規程中別紙ノ通御改正相成度此段上申候也

昭和十五年參月七日

東京音樂學校長　乘杉嘉壽印

文部大臣　松浦鎮次郎殿

明治四十二年四月二十九日文部省令第十三號東京音樂學校

規程中改正案

一、第三條第三項中「セロ、ヴイオラ」ヲ「ヴイオラ、セロ」ニ「トロンボーン、トランペット」ヲ「トランペット、トロンボーン」ニ改メ「トロンボーン」ノ次ニ「打樂器」「ハープ」「歌劇」「邦樂」「作曲法」「指揮法」ヲ「音響學」ノ次ニ「英語」「獨語」ヲ加フ

一、第七條第一項表中「音樂通論」及「和聲學」ヲ一括シテ「音樂理論」ニ改メ「音樂理論」ノ毎週教授時數ハ各學年二時トシ「英語」ヲ「外國語」ニ「體操及遊戯」ヲ「體操」ニ改ム（乙種師範科ノ「外國語」ハ之ヲ缺ク）

一、第七條第二項中「ヴアイオリン」ノ次ニ「ヴイオラ」「セロ」「ダブルベース」ヲ「管樂」ノ次ニ「管絃樂合奏」「打樂器」「邦樂」「指揮法」ヲ加ヘ「音響學」ノ次ノ「及」ヲ削除シ「英語」ヲ加ヘ「獨語」ノ次ニ「佛語」「伊語」ヲ加フ

一、第九條第三項表中左ノ如ク改ム

學科目＼部	本科器樂部オルガン、ヴアイオリン、又ハセロ志望者	本科器樂部ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バツスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器又ハハープ志望者
ピアノ	（從前通り）	一
ピアノ以外ノ專修器樂	（從前通り）	二
器樂合奏	二	二

一、第九條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ
「隨意科目トシテ獨唱、オルガン、ヴアイオリン、ヴイオラ、セロ、ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネツト、バツスーン、ホーン、トランペツト、トロンボーン、打樂器、及ハープヲ授クルコトヲ得」
一、第十三條第二項中但書ヲ削除ス
一、第十四條第一項器樂部器樂中「ヴアイオリン」ノ次ノ「又ハ」ヲ削除シ「セロ」ノ次ニ「ダブルベース」、「フリユート」、「オーボエ」、「クラリネツト」、「バツスーン」「ホーン」「トランペツト」「トロンボーン」「打樂器又ハハープ」ヲ加フ
一、第十四條第二項中「總譜視奏法」ヲ削除シ、「舞踊」ノ次ニ「歌劇」「邦樂」「音樂理論」「指揮法」「音樂史」ヲ加フ

附　則

右各條ノ改正ハ昭和十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

（改正ヲ必要トスル理由）

一、本科隨意學科目中「セロ、ヴイオラ」ヲ「ヴイオラ、セロ」ニ「トロンボーン、トランペツト」ヲ「トランペツト、トロンボーン」ニ改ムルハ一般的慣例ニ從ヒタルモノ
同新タニ學科ヲ加フルハ音樂學修上必要トスルニ由ル
二、師範科學科目中「音樂通論」及「和聲學」ヲ一括シテ「音樂理論」ニ改ムルハ學科ノ内容ヨリ見テ適當トスルニ由ル
同「英語」ヲ「外國語」ニ改ムルハ音樂學修上必要ナル諸外國語ヲ適宜學修セシムル必要アルニ由ル
同「遊戯」ハ「體操」中ニ包含ス
三、甲種師範科隨意學科目中新タニ學科ヲ加フルハ第三條第三項及第七條第一項中改正理由ニ同ジ
四、豫科學科目及毎週教授時數ヲ改ムルハ第三條第三項中改正理由ニ同ジ
五、豫科隨意學科目ヲ新タニ設クルハ第三條第三項中改正理由ニ同ジ
六、研究科作曲部修業年限ノ改正ハ近時生徒ノ音樂理論ニ關スル知識向上シタルニ由ル
七、研究科器樂部學科目中ニ新タニ學科ヲ加フルハ第三條第三項中改正理由ニ同ジ
八、研究科隨意學科目中ニ新タニ學科目ヲ加フルハ第七條第一項及第三條第三項中改正理由ニ同ジ（「總譜視奏法」ハ「音樂理論」中ニ包含ス）

（和文タイプ）
（『東京音樂學校規則　第二册』国立公文書館蔵）

東音專一號　裁決定四月二十三日　發送4月26日
昭和十五年三月二十日起案

省　令　案

東京音樂學校規程中改正ノ件

文部省令第二六號

東京音樂學校規程中左ノ通改正ス

年五月二日　　文部大臣

第三條第三項ヲ左ノ如ク改ム

隨意科目トシテ獨唱、ピアノ、オルガン、ヴアイオリン、ヴイオラ、セロ、ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネツト、バツスーン、ホーン、トランペツト、トロンボーン、打樂器、ハープ、歌劇、邦樂、作曲法、指揮法、美學、音聲學、音響學、英語、獨語、佛語及伊語ヲ授クルコトヲ得

第七條第一項ノ表中「

音樂通論	和聲學
二	一
一	二
一	二
二	一

」ヲ「

音樂理論
二
二
二
二

」ニ、「英語」ヲ「外國語」ニ、「體操及遊戯」ヲ「體操」ニ改メ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

甲種師範科生徒ニハ隨意科目トシテオルガン、ヴアイオリン、ヴイオラ、セロ、ダブルベース、管樂、管絃樂合奏、打樂器、邦樂、指揮法、美學、音聲學、音響學、英語、獨語、佛語及伊語ヲ授クルコトヲ得

第九條第三項ノ表ヲ左ノ如ク改ム

學科目＼部	本科聲樂部志望者	本科器樂部ピアノ志望者	本科器樂部オルガン、ヴアイオリン又ハセロ志望者	本科器樂部ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネツト、バツスーン、ホーン、トランペツト、トロンボーン、打樂器又ハハープ志望者	本科作曲部志望者
修身	一	一	一	一	一
唱歌	六	四	四	四	四
ピアノ	二	二	一	一	二
ピアノ以外ノ專修器樂	—	—	二	二	—
器樂合奏	—	—	二	二	—
音樂理論	二	二	二	二	三
國語	三	三	三	三	三
外國語	三	三	三	三	四
體操	二	二	二	二	二
計	一九	一七	二〇	二〇	一九

同條第三項ノ表ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

隨意科目トシテ獨唱、オルガン、ヴアイオリン、ヴイオラ、セロ、ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネツト、バツスーン、ホーン、トランペツト、トロンボーン、打樂器及ハープヲ授クルコトヲ得

第十三條第二項中但書ヲ削ル

第十四條第一項中「器樂部　器樂、ピアノ、オルガン、ヴアイオリン、又ハセロ」ヲ

「器樂部　器樂　ピアノ、オルガン、ヴアイオリン、セロ、ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネツト、バツスーン、ホーン、トランペツト、トロンボーン、打樂器又ハハープ」ニ改メ

同條第二項ヲ左ノ如ク改ム

隨意科目トシテピアノ、唱歌、管絃樂用器樂、舞踊、歌劇、邦樂、音樂理論、指揮法、音樂史、外國語、國文學、外國文學、美學、音聲學及音響學ヲ授クルコトヲ得

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

「備考」

一、改正ノ理由（別紙參照）

主トシテ音樂學習上ノ必要ニ依ル

二、改正ノ個處

1、本科、師範科、研究科ノ隨意科目ヲ增加シ

（第三條第三項、第七條第二項、第十四條第二項）

2、豫科ニ新ニ隨意科目ヲ設ケ

（第九條第四項）

3、師範科ノ學科目ヲ統合改正シ

（第七條第一項）

4、豫科ノ專修科目數ヲ增加シ（器樂部）履修學科目及時間數ヲ改メ（第九條第三項）

5、研究科ノ修業年限本科作曲部出身者以外ノ者ノ作曲部ニ於ケル三年ヲ（一般ノ修業年限ハ二年）二年トシ

6、研究科ノ器樂部ニ於ケル學科目（專修器樂ノ種類）ヲ增加セントス（第十三條第二項、第十四條第一項）

三、本改正ハ豫算關係ナシ

（手書き）

（『東京音樂學校規則　第二册』国立公文書館蔵）

音庶第四七號ノ二

學則、選科規程中改正ニ付上申案

明治四十二年文部省第十三號東京音樂學校規程中改正ノ件別途上申致候處右御改正ノ上ハ學則竝ニ選科規程中別紙ノ通改正致度ニ付御許可相成度此段上申候也

昭和十五年三月七日

東京音樂學校長　乘杉嘉壽印

文部大臣　松浦鎮次郎　殿

學則中改正案

一、第三條聲樂部器樂部作曲部外國語中「英語」ノ次ノ「又ハ」ヲ削除シ「獨語」ノ次ニ「佛語又ハ伊語」ヲ加ヘ器樂部器樂中「トロンボーン又ハトランペツト」ヲ「トランペツト、トロンボーン」ニ改メ「トロンボーン」ノ次ニ「打樂器又ハハープ」ヲ加フ

一、第六條中「セロ、ヴイオラ」ヲ「ヴイオラ、セロ」ニ「トロンボーン、トランペツト」ヲ「トランペツト、トロンボーン」ニ改メ「トロンボーン」ノ次ニ「打樂器」「ハープ」「歌劇」「邦樂」「作曲法」「指揮法」ヲ「音聲學」ノ次ニ「英語」「獨語」

ヲ加フ

一、第八條甲種師範科學科目中「音樂通論」及「和聲學」ヲ一括シテ「音樂理論」ニ改メ「英語」ヲ「外國語」ニ「體操及遊戯」ヲ「體操」ニ改メ

乙種師範科學科目中「音樂通論」ヲ「音樂理論」ニ「體操及遊戯」ヲ「體操」ニ改ム

一、第十條表中「音樂通論」及「和聲學」ヲ一括シテ「音樂理論」ニ改メ「音樂理論」ノ毎週教授時數ハ各學年二時トシ「英語」ヲ「外國語」ニ「體操及遊戯」ヲ「體操」ニ改ム（乙種師範科ノ「外國語」ハ之ヲ缺ク）

一、第十一條中「ヴアイオリン」ノ次ニ「ヴイオラ」「セロ」「ダブルベース」ヲ「管樂」ノ次ニ「管絃樂合奏」「打樂器」「邦樂」「指揮法」ヲ加ヘ「音響學」ノ次ニ「英語」ヲ「獨語」ノ次ニ「佛語」「伊語」ヲ加フ

一、第十四條器樂中「トロンボーン又ハトランペット」ヲ「トランペット、トロンボーン」ニ改メ「トロンボーン」ノ次ニ「打樂器又ハハープ」ヲ「器樂」ノ次ニ「器樂合奏」ヲ加ヘ、外國語中「英語」ノ次ノ「又ハ」ヲ削除シ「獨語」ノ次ニ「佛語又ハ伊語」ヲ加フ

一、第十六條表中左ノ如ク改ム

學科目＼部	本科器樂部オルガン、ヴアイオリン又ハセロ志望者	本科器樂部ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バツスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン打樂器又ハハープ志望者
ピアノ	（從前通り）	一
ピアノ以外ノ專修器樂	（從前通り）	二
器樂合奏	二	二

一、第十六條第一項表ノ次ニ第十六條ノ二トシテ左ノ一項ヲ加フ

「第十四條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルベシ

獨唱、オルガン、ヴアイオリン、ヴイオラ、セロ、ダブルベース、フリユート、オーボエ、クラリネツト、バツスーン、ホーン、トランペツト、トロンボーン、打樂器、ハープ」

一、第十八條器樂部器樂中「ヴアイオリン」ノ次ノ「又ハ」ヲ削除シ、「セロ」ノ次ニ「ダブルベース」「フリユート」「オーボエ」「クラリネツト」「バツスーン」「ホーン」「トランペット」「トロンボーン」「打樂器又ハハープ」ヲ加フ

一、第十九條中但書ヲ削除ス

一、第二十條第一項中「總譜視奏法」ヲ削除シ「舞踊」ノ次ニ「歌劇」「邦樂」「音樂理論」「指揮法」「音樂史」ヲ加フ

一、第二十條第二項中「研究科ニ於テ」ヲ「器樂部ニ於テ」ニ改メ「管絃樂合奏」ノ次ニ「ヲ」ヲ加ヘ「其他ノ者ニハ」ヲ「聲樂部ヲ修ムル者ニハ」ニ改メ「合唱」ノ次ニ「歌劇」ヲ加フ

一、第二十六條第一項中「戸籍謄本」ノ次ニ「（戸籍抄本ヲ以テ代フルコトアルベシ）」ヲ加フ

一、第三十九條中「本科聲樂部ノ唱歌、同器樂部ノ專修器樂」ノ次ニ「同作曲部ノ音樂理論」ヲ加ヘ「豫科ノ唱歌及器樂」ヲ「豫

科聲樂部志望者ノ唱歌同器樂部志望者ノ志望器樂、同作曲部志望者ノ音樂理論」ニ改ム

附　則

右各條ノ改正ハ昭和十五年四月一日ヨリ施行ス

（學則中改正ヲ必要トスル理由）

一、第三條本科學科目中ノ改正ハ本校規程第七條第一項及第三條第三項中改正理由ニ同ジ

二、第六條本科隨意學科目中ノ改正ハ本校規程第三條第三項及第七條第一項中改正理由ニ同ジ

三、第八條師範科學科目中ノ改正ハ本校規程第七條第一項中改正理由ニ同ジ

四、第十條師範科學科竝毎週教授時數表中ノ改正ハ本校規程第七條第一項中改正理由ニ同ジ

五、第十一條甲種師範科隨意學科目中ノ改正ハ本校規程第三條第三項及第七條第一項中改正理由ニ同ジ

六、第十四條豫科學科目中ノ改正ハ本校規程第三條第三項及第七條第一項中改正理由ニ同ジ

七、第十六條豫科學科目及毎週教授時數表中ノ改正ハ本校規程第三條第三項改正理由ニ同ジ

八、第十六條ノ二トシテ豫科隨意學科ヲ新タニ設クルハ本校規程第三條第三項中改正理由ニ同ジ

九、第十八條研究科器樂部學科目中ノ改正ハ本校規程第三條第三項中改正理由ニ同ジ

十、第十九條研究科作曲部修業年限ノ改正ハ近時生徒ノ音樂理論ニ關スル知識向上シタルニ由ル

十一、第二十條第一項研究科隨意學科目中ノ改正ハ本校規程第三條第三項及第七條第一項中改正理由ニ同ジ（「總譜視奏法」ハ「音樂理論」中ニ包含ス）

十二、第二十條第二項ノ改正ハ第七條第一項及第三條第三項中改正理由ニ同ジ

十三、第二十六條第一項中ノ改正ハ本省ノ通牒ニ由ル

十四、第三十九條中ノ改正ハ專修學科ヲ重視スルニ由ル

選科規程中改正案

一、第一條中「長唄（唄及三味線又ハ囃子）」ヲ「長唄（唄、三味線囃子又ハ舞踊）」ニ改ム

一、第十八條中「長唄中ノ」次ニ「舞踊ヲ除キタル他ノ」ヲ加フ

一、第十九條中左ノ如ク改ム

「一、無屆缺席久シキニ亙ルモノ

二、屢々缺席シ出席常ナラサルモノ

三、成果ノ見込ナキモノ

四、所定ノ期限内ニ試驗ヲ終了セサルモノ

五、所定ノ期限内ニ授業料ヲ納付セサルモノ

前項ニ掲ケタル場合ノ外臨機除籍ノ處置ヲナスコトアルベシ」

附　則

右各條ノ改正ハ昭和十五年四月一日ヨリ施行ス

（選科規定中改正ヲ必要トスル理由）

一、第一條長唄中學科目ノ改正ハ長唄學修上必要トスルニ由ル

二、第十八條中ノ改正ハ教授組織ノ關係上舞踊ト長唄舞踊其他ノ學科目トノ併修者ニ對シテハ授業料減額ヲ認メサルノ必要アルニ由ル

三、第十九條中ノ改正ハ生徒學籍整理ノタメ必要トスルニ由ル

（和文タイプ）（『東京音樂學校規則　第二册』国立公文書館蔵）

東音專二號　裁決定五月二日　發送5月2日

昭和十五年三月二十日起案

東京音樂學校學則竝ニ選科規程改正

指　令　案

東京音樂學校

昭和十五年三月七日音庶第四七號申請學則竝ニ選科規程中改正ノ件許可ス

年五月二日

文　部　大　臣

「備考」

1、改正ノ要旨

一、學修上ノ必要ニ依リ、本科、師範科、研究科、隨意科目中學科、外國語ヲ增加シ（第六條　第十一條　第二十條）

二、尙本科ノ學科目中外國語ノ種類ヲ增加シ（第三條）

三、師範科ノ英語ヲ外國語トシ（第八條）

四、豫科ノ學科目（特ニ器樂部）ヲ增加シ　尙　隨意科目ヲ新ニ設ケ（第十四條　第十六條）

ピアノヲ除ク器樂部志望者ニ器樂合奏　每週二時間ヲ課シ（第十六條）

五、研究科ノ器樂部ノ學科目ヲ增加シ（第十八條）

修業年限本科作曲部以外ノ出身ノ作曲部三年ヲ二年トシテ全部一樣ニシ（第十九條）（生徒ノ音樂理論ノ知識向上ノタメ）

六、研究科ノ器樂部及聲樂部ノ夫々專修ノ隨意科目ヲ分チ（第二十條）

七、成績評定ノ科目ノ重輕ヲ專修ノ部ニ對應セシメントシ

（以上　學則中改正ノ分）

八、長唄學修上ノ必要ニ依リ　長唄中舞踊ヲ加ヘ（第一條）

九、二科目以上併修ノ場合ニ於ケル授業料減額ノ規程中教授組織ノ關係上長唄中舞踊ト其他ノ併修者ニハ減額ヲ認メザルコトトセントシ（第十八條）

十、生徒學籍整理ノタメ除籍規程ヲ嚴ニセントス（第十九條）

（以上　選科規程中改正ノ分）

2、豫算關係ナシ

（手書き）

（『東京音樂學校規則　第二册』国立公文書館蔵）

昭和十五年〜十六年

『東京音樂學校一覽　補遺　自昭和十五年至昭和十六年』は昭和十六年六月十五日に発行された。したがって十六年度に制定もしくは改正された規程も六月分まで記載されている。

五月、前年度に関係書類を掲載した「文部省令第二十六號」により学則改正される。『東京音樂學校諸規則　自昭和十四年至昭和十五年』（前年度の解説参照）より、該当条項を次に掲げる。

第三、學　則　　昭和十五年五月二日改正

第二章　本　科

第三條　本科ヲ分チテ聲樂部、器樂部及作曲部トス其ノ學科目左ノ如シ

聲樂部　修身、唱歌、音樂理論、音樂史、國語、外國語　英語、獨語、佛語又ハ伊語、體操

器樂部　修身、器樂　ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、セロ、ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バッスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器又ハハープ、器樂合奏、音樂理論、音樂史、國語、外國語　英語、獨語、佛語又ハ伊語、體操

作曲部　修身、唱歌、器樂、ピアノ、器樂合奏、音樂理論、音樂史、國語、外國語　英語、獨語、佛語又ハ伊語、體操

第六條　第三條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルヘシ

獨唱、ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バッスーン、ホーン、トランペット、打樂器、ハープ、歌劇、邦樂、作曲法、指揮法、美學、音聲學、音響學、英語、獨語、佛語、伊語

第三章　師　範　科

第八條　師範科ヲ分チテ甲種師範科及乙種師範科トス其ノ學科目左ノ如シ

甲種師範科　修身、唱歌、ピアノ、音樂理論、音樂史、教育學、音樂教授法、國語、外國語、體操

乙種師範科　修身、唱歌、オルガン又ハピアノ、音樂理論、音樂教授法、國語、體操

第十條　甲種師範科、乙種師範科ノ各學科目ノ毎學年配當竝毎週教授時數左ノ如シ

學年	甲種師範科			乙種師範科
學科目	第一學年	第二學年	第三學年	
修身	一	一	一	一
唱歌	六	六	六	一〇
器樂	二	二	二	三
音樂理論	二	二	二	二
音樂史	二	二	一	一
教育學	二	二	一	一
音樂教授法	一	一	二	一
國語	三	三	三	三
外國語	三	三	三	一

體操	二	二	二	二
計	二三	二三	二一	二一

甲種師範科生徒ニシテ國語科教員志望ノ者ニハ別ニ國語及漢文一週五時間ヲ課ス

第十一條　甲種師範科ニ在リテハ第八條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルヘシ

オルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、管樂、管絃樂合奏、打樂器、邦樂、指揮法、美學、音聲學、音響學、英語、獨語、佛語、伊語

第四章　豫　科

第十四條　豫科ノ學科目ハ修身、唱歌、器樂　ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、セロ、ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バッスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器又ハハープ、器樂合奏、音樂理論、國語、外國語、英語、獨語、佛語又ハ伊語及體操トス

第十六條ノ一　豫科ノ各學科目ノ毎週教授時數左ノ如シ

學科目＼部	本科聲樂部志望者	本科器樂部ピアノ志望者	本科器樂部オルガン、ヴァイオリン又ハセロ志望者	本科器樂部ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バッスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器又ハハープ志望者	本科作曲部志望者
修身	一	一	一	一	一
唱歌	六	四	四	四	四
ピアノ	二	二	一	一	二
ピアノ以外ノ專修器樂	一	一	二	二	一
器樂合奏	一	一	二	二	三
音樂理論	二	二	二	二	三
國語	三	三	三	三	三
外國語	三	三	三	三	四
體操	二	二	二	二	二
計	一九	一七	一八	一八	一九

第十六條ノ二　第十四條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルベシ

獨唱、オルガン、ヴァイオリン、ヴィオラ、セロ、ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バッスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器、ハープ

第五章　研　究　科

第十八條　研究科ヲ分チテ聲樂部、器樂部、作曲部及邦樂部トス其ノ學科目左ノ如シ

聲樂部　唱歌

器樂部　器樂　ピアノ、オルガン、ヴァイオリン、セロ、ダブルベース、フリュート、オーボエ、クラリネット、バッスーン、ホーン、トランペット、トロンボーン、打樂器又ハハープ

作曲部　音樂理論

邦樂部　能樂又ハ絃曲（箏曲長唄）

第十九條　研究科ノ修業年限ハ二箇年トシ授業時數ハ一學科目ニ付毎週二時間以内トス

第二十條　第十八條ノ學科目ノ外隨意科目トシテ左ノ學科目ヲ課スルコトアルヘシ

ピアノ、唱歌、管絃樂用器樂、舞踊、歌劇、邦樂、音樂理論、指揮法、音樂史、外國語　英語、獨語、佛語又ハ伊語、國文學、外國文學、美學、音聲學、音響學

器樂部ニ於テ管樂又ハ絃樂ヲ修ムル者ニハ管絃樂合奏ヲ聲樂部ヲ修ムル者ニハ合唱、歌劇ヲ課ス

第七章　入　學

第二十六條　入學志願者ハ左ノ書類ニ檢定料金五圓ヲ添ヘ差出スヘシ

一　入學願書
一　履歴書
一　卒業證明書又ハ修了證明書
一　薦擧書（甲種師範科ニ限ル）
一　戸籍謄本（戸籍抄本ヲ以テ代フルコトアルベシ）

本科又ハ邦樂科卒業者ニシテ研究科ニ入學セント欲スル者ハ入學願書ノ外前項ノ書類ヲ差出スニ及ハス又檢定料ヲ納付スルニ及ハス

第十七條第三項ニ依リ入學ヲ志願スル者ハ別ニ檢定料金五圓ヲ納付スヘシ

既納ノ檢定料ハ如何ナル場合ニモ之ヲ返付セス

第十章　試業、進級、卒業

第三十七條　試業ハ毎學年末之ヲ行フ

第三十八條　本科及邦樂科生徒ハ三學年修業シタル後ニアラサレハ卒業試業ヲ受クルコトヲ得ス

第三十九條　試業ノ成績ハ點數ヲ以テ評定ス

本科聲樂部ノ唱歌、同器樂部ノ專修器樂、同作曲部ノ音樂理論、師範科ノ唱歌及器樂、邦樂科ノ能樂又ハ絃曲、豫科聲樂部志望者ノ唱歌、同器樂部志望者ノ志望器樂、同作曲部志望者ノ音樂理論、研究科聲樂部ノ唱歌、同器樂部ノ器樂、同作曲部ノ音樂理論及同邦樂部ノ能樂又ハ絃曲ハ二百點ヲ以テ滿點トシ百二十點以上ヲ合格トス其ノ他ノ學科目ハ一百點ヲ以テ滿點トシ五十點以上ヲ合格トス

（『東京音樂學校諸規則　自昭和十四年至昭和十五年』六～一五頁）

（五）昭和十六年度～二十年終戦

昭和十六年～十七年

十六年十二月「研究科臨時學則ヲ定ム」。これは『一覧』の学則全体の最後に追加され記載されている。

研究科臨時學則

第一條　昭和十六年度ニ於テ卒業スヘキ者ヲ入學セシムル爲一月一日ヲ始期トシ十一月三十一日ヲ終期トスル學年ノ研究科ヲ臨時ニ設ク

第二條　前條ノ學年ハ分チテ左ノ三學期トス

第一學期　一月一日ヨリ三月三十一日
第二學期　四月一日ヨリ九月十日
第三學期　九月十一日ヨリ十二月三十一日